

文部科学大臣環境美化奨励賞「最優秀校」 北九州市立赤崎小学校(若松区)へ感謝状贈呈 新日本製鐵(株)八幡製鐵所

新日本製鐵(株)八幡製鐵所では、さる 12 月 18 日、北九州市戸畑区飛幡の同所総合センターにおいて、このたび「文部科学大臣環境美化奨励賞」の最優秀校を受賞した北九州市立赤崎小学校(若松区)に対して、優れた環境教育と空き缶リサイクルの実践を行い、その取り組みは、鉄鋼製造に大きく寄与したとして感謝状と記念品(サッカーボール)の贈呈を小学生 62 名を含む関係者 100 余名が参加のもと執り行った。

その贈呈式において、新日本製鐵(株)八幡製鐵所の浜本康夫所長は「この度、受賞おめでとうございます。皆さんは、三年間に 10 トンの缶を集めました。缶一個は、本当に軽いですから 10 トンの缶を集めるといのは、本当に気の遠くなるような缶の個数だったと思います。皆さんが一つ一つ集めた缶が、今回、製鐵所の中で赤い鉄が流れていくのを皆さんは見たと思いますが、皆さんの集めた缶の一つ一つがあの赤い鉄になっているのです。そして、それは、もっと薄い鉄になって、もう一度ジュースやコーヒーの缶になって戻ってくるわけです。そのことによって、鉄を作る材料が節約されて地球の環境が良くなり、地球が長生きできることにもなりますし、町も綺麗になります。本当に皆さんは、素晴らしい活動を実行されたと思います」と挨拶をおこなった。

また、北九州市立赤崎小学校の安部大真校長は、「本当に、子供たちのこうした地道な活動に対して、新日本製鐵(株)の方々、そして今日は、家族の方もこられておられますが、ご支援頂きまして本当にありがとうございました。先程、子供たちが作文のなかで申しましたように、この活動を通して地域の輪ができております。たかが空缶ということなのですが、これが本当に心と心をつなぐ大きな働きをしています。今日は、所長さんはじめ沢山の方々にこうして励まして頂きました。これからも一生懸命続けていきます。本当に、今日はありがとうございました」と挨拶を行った。

また、門司彩佳さん(5年)は、答礼として「初めは、どうして空缶を集めるのかよく解りませんでした。でも空缶が回収され再び大切な資源として甦ることを学習し、資源回収の楽しさが解ってきました」また、中川那奈美さん(同)は、「皆の力が一つになって頑張ったので、沢山の空缶が集まるようになったと思います。そのことで皆が協力することの大切さや、資源をリサイクルすることの大切さを学びました」と作文を読んだ。



佐伯優矢君に感謝状を贈呈する浜本所長



挨拶を述べる浜本所長



感謝の言葉を述べる安部校長



お礼の言葉を述べる

左から(中川さん、門司さん)